



始



事績報告

第五號



愛媛縣原蠶種製造所

14.2h - 347



本編ハ大正五年度ニ於ケル事績ノ

概要ヲ輯録シタルモノトス

大正六年四月

緒言

愛媛縣原蠶種製造所

大正
6. 6. 19
内交

愛媛縣の蠶絲業

大正五年統計

桑園反別	六、〇三一町
養蠶戸數	三〇、四四九戸
掃立枚數	七九、五三三枚
繭産額	一〇三、四一九石
蠶種製造者數	一〇二名
蠶種製造額	一二五、一七一枚
器械製絲工場數	八〇所
生絲産額	九五、九〇二貫

目 次

第一 本所の概況

第二 原蠶種製造並に配付

第三 試験並に調査

第四 講習

事 績 報 告 第五號

第一 本所の概況

一、位 置

本所は喜多郡大洲村大字中村にあり。

二、沿 革

明治四十四年十一月、通常縣會に於て、本所設置の件を議定し、翌四十五年五月原蠶種製造所規程を公布すると同時に、愛媛縣事務官補武内鼎吉所長心得を命せられ、本縣内務部農商課内に事務の取扱を開始す。大正元年八月敷地を喜多郡大洲村大字中村に相す。同年十二月專任技術官及び書記の任命あり。大正二年三月建築工事に着手し、翌三年三月概ぼ豫定の工事を終へたり。之れより先き、大正二年五月愛媛縣立農業學校教諭池田榮太郎、愛媛縣農業技師に任じ、本所長を命せらる。大正三年二月農商務省令を以て、道府縣原蠶種製造所規程を發布せらる。同年九月池田所長は、廣島縣原蠶種製造所長に轉じ愛媛縣技師服部柳太郎、所長事務取扱を命せらる。同年十一月青森縣農業技師高橋大吉、本所技師に任せられ所長を命せらる。今年度以前に於ける、事績を摘録すれば左の如し。

明治四十五年
大正元年 度

創設の際にして設備未だ其緒につくに至らず、種繭審査會の審査に合格したる春蠶一化性種繭中、特に優良と認むる、青熟、大青、又昔、白龍の四種七系統、種繭二石一斗三升七合八勺を購入し、東宇和郡宇和町に於て、原蠶種一萬六千三百二十四蛾を製造し、此うちより一萬二千二百四十八蛾を得、内九千七百十六蛾を縣下蠶種製造業者七十五名に配付せり。

大正一年度 未だ工事完成に至らざるを以て、本縣立農業學校内に於て事業を施行せり。即ち春

蠶は前年製造に係る原蠶種四種七系統の比較飼育を爲し、蠶種の製造をなす。而して原蠶種は前年度の如く、専ら種繭審査會に合格せるもの、中より、種繭を買収し製造配付の豫定なりしも、審査種繭量少額なりし爲め、其目的を遂行するに至らず。秋蠶は縣の内外より優良種と認めらるゝ二十四種を蒐集飼育し、青熟、青熟中巢、中巢、白露の四種五系統を選抜し、原蠶種二百二十四蛾を製造せり。

大正二年度 本所に於て事業を開始するに至りしも、春蠶に於ては未だ桑園より收葉する能はず春蠶は青熟、國一、又昔、佛國〇號、交配一號の五種七系統。秋蠶は中巢、青熟の二種四系統につき原蠶種春蠶四千百十六蛾、秋蠶四百七十六蛾の製造をなし、内春蠶千九百五十蛾を蠶種製造者三十名に配付せり。而して試験は春蠶種類試験外八項にして蠶種浸酸孵化法は、其成績に鑑み、之れが實習會を催せしに、來會者五十一名に及べり。

大正四年度 春蠶は、青熟、赤熟、支那二十號、交配一號、國蠶支四號、國蠶支五號、龍角、諸桂の八種八系統。秋蠶は、中巢、青熟、金鷄龍、白露の四種五系統につき、原蠶種春蠶三千九百四十五蛾、秋蠶一千六百五十二蛾の製造をなし、内春蠶二千八十七蛾、秋蠶千八百六十二蛾を蠶種製造業者三十三名に配付せり。試験は、養蠶七項、桑園四項に亘り之を行ふ。本年度始めて研究生の募集を行ひ、久米幸助外五名の修了生を出せり。

三、設備

土地

總反別 一町八反二畝二十七步

應舍敷地 四反二畝七步

通路用地 一反七畝二十步
桑園 一町二反三畝步

桑園番號	坪數	栽培年次	品種名	畦數	株間	株間	株數
第一號	三九 ^坪	大正二年	市平	二七	五〇	二〇	一、〇四九
第二號	五二	大正二年	魯平	二七	五〇	二〇	一、〇四九
第三號	五五	大正二年	魯平	二五	五〇	二五	一、八四六
第四號	五七	同	同	二五	五〇	二五	一、五七二
第五號	五三	同	同	二五	五〇	二五	一、四三六
第六號	五五	同	同	二五	五〇	二五	一、六二六
試驗園	三〇	大正三年	同	三	不定	不定	六三七
見本園	三〇	至大正五年	百七十種	一七	四五	二五	一種五株施

建築物

種別	構造	坪數
本館	平家建瓦葺	三五 ^坪 ・五〇
蠶室	二階建瓦葺	九七・五〇
實驗室	平家建瓦葺	八七・五〇
貯桑室	平家建瓦葺(地下室付)	二〇・〇〇

乾繭並消毒室	平家建亞鉛板葺	一、二七五
宿直室	平家建瓦葺	一〇〇〇
寄宿舍	同廊下亞鉛板葺	四〇二五
食堂並炊事場	同	一六五〇
物置並農夫舍	同	一二〇〇
渡廊下	平家建亞鉛板葺	四二二五
堆肥舍及肥溜所	平家建瓦葺	一七二七
計便	同	六五〇
		三一九一七

四、經費

本年度經費左の如し。

經常費	俸給	雜給	所費	修繕費
五、九一七 ^円	二、〇六四 ^円	一、八四三 ^円	一、七五八 ^円	二五二 ^円

五、職員

- 技所長 技師 愛媛縣技師 高橋 太吉
- 助手 愛媛縣技師 小曾 戸俊男
- 技手 愛媛縣技師 矢野 藤吉
- 書記 近藤 規矩丸
- 助書 野間 松一

第二 原蠶種製造並に配付

一、原蠶種製造成績

本年度製造せる原蠶種は、春蠶七種七系統、秋蠶七種七系統とす。其成績左の如し。

春蠶

蠶兒の経過

名	稱	化性	掃立月日	上簇月日	飼育日	食日	計數	室内平均	給回數	給對一蠶
青熟	青熟	一	五月一日	六月四日	二六〇六	七二六	三三二二	七二二	一六七	三、五三二
本日	青熟	一	五月一日	六月三日	二五〇九	七二〇	三三〇五	七二八	一六四	三、六三二
原日	青熟	一	五月一日	六月四日	二五〇三	八〇三	三四〇二	七二二	一六六	三、三九三
原支	ろ號	一	五月二日	六月二日	二三一〇	七〇〇	三三〇〇	七二五	一五五	三、二九三
原支	は號	一	五月二日	六月二日	二三〇八	八〇五	三三二三	七二七	一五一	三、六三〇
國蠶	支四號	一	五月二日	六月二日	二四一五	七〇六	三二二二	七二六	一五五	二、九二四

國蠶支五號	一	五〇三	六〇三	二五二	六二二	三二二	七二七	七〇〇	一六五	二、七〇、四
-------	---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--------

各齡の飼育日數

名稱	第一齡		第二齡		第三齡		第四齡		第五齡	
	食桑	絶食	食桑	絶食	食桑	絶食	食桑	絶食	食桑	絶食
青熟	四二三日	一二八日	四二三日	一二三日	三二二日	二〇三日	四二三日	二二七日	七二二日	八〇〇日
本青	五〇四日	一二五日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日
原日	五〇六日	一二五日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日
原支	四二三日	一二八日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日
原支	四二三日	一二八日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日
原支	四二三日	一二八日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日
國蠶支四號	五〇三日	一二八日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日
國蠶支五號	五二〇日	一二二日	四二三日	一二〇日	三二二日	二〇五日	四二三日	二二七日	七〇五日	八〇〇日

各齡の給桑

名稱	第一齡		第二齡		第三齡		第四齡		第五齡	
	回数	數量	回数	數量	回数	數量	回数	數量	回数	數量
青熟	三元	一七五	三元	四八〇	二元	二二五	二元	四七四	三元	二、八七、〇
本青	三元	一七五	三元	四八〇	二元	二二五	二元	四七四	三元	二、八七、〇

名稱	第一齡		第二齡		第三齡		第四齡		第五齡	
	回数	數量	回数	數量	回数	數量	回数	數量	回数	數量
原日	四	一三九	三	三七三	二	一五〇	二	四〇三	三	二、七〇、〇
原支	三元	一六四	三	四〇四	二	一五〇	二	三五〇	三	二、七八、〇
原支	三元	一五四	二	三三二	二	一五〇	二	三六三	三	三、一六、五
國蠶支四號	四	一四七	二	三三九	二	一四七	三	三〇八	三	二、四九、六
國蠶支五號	四	一九七	三	三七三	二	一四七	三	三四七	三	二、四六、〇

給桑の數量は平均一蛾に對するものとす。

收繭の歩合

名稱	上繭	同巧繭	其他繭
青熟	八一・九%	一二・四%	五・七%
本青	八〇・七%	一五・二%	四・一%
原日	八〇・二%	一五・二%	四・一%
原支	九九・七%	〇・二%	〇・一%
原支	九九・七%	〇・二%	〇・一%
國蠶支四號	九二・五%	四・三%	三・二%
國蠶支五號	九三・三%	二・〇%	四・七%

本表は上簇後八日目收繭の重量につき調査したるものとす。
本表中、其他繭とは、簿皮繭、死籠繭、不正形繭を云ふ。

繭の品位

名稱	青熟	本青	原日	原支	原支	國蠶	名稱	絲		長		織		度	對絲長四百回	對生繭重一升量
								最長	最短	平均	最太	最細	平均			
青熟	有縫圓筒形	純白	中	粗	一四六七%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
本青	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
原日	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
原支	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
原支	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
國蠶	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
國蠶	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
國蠶	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	

繭一粒繰の成績

名稱	青熟	本青	原日	原支	原支	國蠶	名稱	絲		長		織		度	對絲長四百回	對生繭重一升量
								最長	最短	平均	最太	最細	平均			
青熟	有縫圓筒形	純白	中	粗	一四六七%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
本青	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
原日	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
原支	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
原支	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
國蠶	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
國蠶	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	
國蠶	有縫圓筒形	純白	粗	粗	一四〇〇%	二六	八六	七五〇	五二〇	六六五	三〇五	三〇五	二八	一	九六	

蠶種製造額並に親蛾検査の成績

名稱	種繭樹量	製造期間		製造蛾數	無毒蛾數	有毒蛾數	有毒歩合
		最始	最終				
原支は號	八〇五	五月	六月	二八三	二〇五	二四三	〇四
國蠶支四號	六九八	五月	六月	三二六	二〇九	二五六	〇四
國蠶支五號	六九〇	五月	六月	三八八	二六五	二九六	〇二

名稱	種繭樹量	製造期間		製造蛾數	無毒蛾數	有毒蛾數	有毒歩合
		最始	最終				
青熟	五〇〇	六月	六月	四、一〇三	三、九八六	八二	二〇六
本青	一五〇	六月	六月	一、二五二	一、二四四	八	〇六三
原日	三五〇	六月	六月	二、六五二	二、六三八	三	〇四九
原支	一〇〇	六月	六月	六三六	六三一	五	〇七六
原支	一〇〇	六月	六月	八三六	八二五	五	〇六〇
國蠶支四號	三七〇	六月	六月	一、八七三	一、八六三	一〇	〇五三
國蠶支五號	三五〇	六月	六月	二、七二九	二、七二二	七	〇二五

有毒蛾數には雌雄両蛾の有毒を通算せり、有毒歩合とは、其有毒蛾數により算出したるものなり。

秋 蠶 兒 の 經 過

名稱	化性掃立月日上簇月日	飼育日數		室內平均		給桑
		食桑	絕食	溫度	濕度	
中巢	八月三日	一七〇	三二	八〇.七	七九.九	二九
青熟	八月三日	一六二	四〇	八〇.三	七九.七	二九
金龍	八月二日	一六〇	四二	八〇.五	七九.七	二九
白露	八月二日	一六〇	四二	八〇.四	八〇.八	二五
原支に號	八月二日	一五〇	四〇	七九.一	八〇.一	二六
國蠶日一七號	八月二日	一五〇	四〇	八〇.三	八〇.一	二二
國蠶支九號	八月二日	一六〇	四〇	八〇.三	八〇.一	二二

各齡の飼育日數

名稱	第一齡		第二齡		第三齡		第四齡		第五齡	
	食桑	絕食	食桑	絕食	食桑	絕食	食桑	絕食	食桑	絕食
中巢	三.〇六	〇.二二	二.〇六	〇.一八	三.〇〇	一.〇一	四.〇一	一.〇五	四.〇一	五.〇〇
青熟	三.〇〇	〇.三三	二.〇六	〇.三三	三.〇〇	一.〇一	四.〇一	一.〇四	四.〇九	五.〇六
金龍	二.三三	一.〇〇	二.〇六	〇.二〇	三.〇〇	一.〇七	四.〇一	一.〇九	四.〇九	五.〇六
白露	二.三三	一.〇〇	二.〇六	〇.二〇	三.〇〇	一.〇七	四.〇一	一.〇九	四.〇九	五.〇六
原支に號	二.二六	〇.一六	二.〇〇	一.〇〇	二.一九	一.〇一	三.〇〇	一.〇三	四.〇五	五.〇六
國蠶日一七號	三.〇四	一.〇〇	二.〇三	〇.三三	二.一〇	一.〇一	三.二二	一.〇五	四.〇七	五.〇〇

國蠶支九號	三.〇五	〇.二二	四.〇一	二.〇一	〇.三三	三.〇一	二.〇六	〇.三三	三.〇四	二.三三	一.〇八	四.〇六	五.一七	五.一七
-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

各齡の給桑

名稱	第一齡		第二齡		第三齡		第四齡		第五齡	
	回数	數量	回数	數量	回数	數量	回数	數量	回数	數量
中巢	二六	二〇.八	二二	三三.六	三三	一一.六	二四	三〇.九	三四	一.四九
青熟	二六	二〇.八	二二	三三.六	三三	一一.六	二四	三〇.九	三四	一.四九
金龍	二五	一五.七	二二	三三.四	三三	九.三〇	二四	三〇.〇	三五	一.三六
白露	二五	一五.七	二二	三三.四	三三	九.三〇	二四	三〇.〇	三五	一.三六
原支に號	二六	一六.九	二二	三三.七	三三	九.三〇	二四	三〇.〇	三四	一.三九
國蠶日一七號	三〇	一六.〇	三三	三六.〇	二五	一〇.二四	二五	三五.〇	三〇	一.二八
國蠶支九號	二四	二三.三	一五	三七.七	一八	八.五三	二〇	三五.〇	三七	一.四二

給桑の數量は平均一蛾に對するものとす。

收繭の歩合

名稱	上繭	同巧繭	其他繭
中巢	八六.九%	八.九%	四.二%
青熟	七〇.〇%	九.六%	二〇.四%

金 鷄 龍	八六二	一一四	二四
白 露	七九七	一七三	三〇
原支に號	八〇四	一〇二	九四
國蠶日一七號	七二〇	一六一	一一九
國蠶支九號	九一八	〇七	七五

本表は上簇後七日目收繭の重量につき調査したるものとす。
木表中其他繭とは、薄皮繭、死籠繭、不正形繭を云ふ。

繭の品位

名 稱	形 狀	色 澤	縮 皺	繭層歩合	對生繭一升	
					顆 數	重 量
中 巢	有縱圓筒形	純 白	粗	一四四	一九五	九三
青 鷄 龍	有縱圓筒形	純 白	粗	一四二	一九六	九七
金 鷄 龍	有縱圓筒形	純 白	粗	一四三	一九九	九〇
白 露	有縱圓筒形	純 白	粗	一四三	一九八	九〇
原支に號	淺縱圓筒形	純 白	粗	一四三	一九九	九〇
國蠶日一七號	有縱圓筒形	純 白	粗	一三五	二〇四	八二
國蠶支九號	橢圓球形	純 白	粗	一三五	二〇四	八二

繭一粒繰の成績

名 稱	絲 長			織 度			對絲長四百回切斷
	最 長	最 短	平 均	最 太	最 細	平 均	
中 巢	八三〇	五〇〇	六六二	二九六	一九七	二四九	二〇
青 鷄 龍	七六〇	五五二	六三七	三〇四	二五〇	二七二	二〇
金 鷄 龍	八〇八	五五〇	六九八	二六三	一九三	二二三	二〇
白 露	六四五	四七三	五五九	三三四	二四二	二二七	一〇
原支に號	七六〇	五三〇	六五七	二七二	一八六	二二四	一〇
國蠶日一七號	五七五	四六五	五三〇	二九九	二二七	二六九	一〇
國蠶支九號	八四五	六〇〇	七二二	二二九	二一八	二二六	一〇

蠶種製造額並に親蛾検査の成績

名 稱	種 繭 量	製 造 期 間		製 造 蛾 數	無 毒 蛾 數	有 毒 蛾 數	有 毒 歩 合
		最 始	最 終				
中 巢	二五三	九〇三日	九〇六日	二、一〇〇	一、九九五	二四	一、一六%
青 鷄 龍	二〇六	九〇三日	九〇六日	一、七〇八	一、六四三	二六	一、七三%
金 鷄 龍	二〇九	九〇三日	九〇六日	一、五九六	一、五四三	二七	一、七〇%
白 露	二八八	九〇三日	九〇六日	二、二六八	二、一七〇	三三	一、五三%

(111)

(111)

原支に就	〇	1008	1010	504	492	二	040
國蠶日一〇七號	〇	917	919	476	455	一	011
國蠶支九號	二〇	1014	1017	840	811	二	310

有毒蛾數には、雌雄兩蛾の有毒を通算せり、有毒歩合とは、其有毒蛾數により算出せるものなり。

二、原蠶種の配付

本年度の原蠶種は、單獨なる原種及び基礎原種に區分し、基礎原種は雜種試験の成績により、二種を組合せて配付せり。而して配付請求蛾數は、春蠶三萬七千八百五十四蛾、秋蠶二萬四千三百五十五蛾、合計六萬二千二百〇九蛾に達せり。原種の組合せ、配付蠶數、配付せし蠶種製造業者名左の如し。

組合せ並に配付蛾數

春蠶

組合	化性	名	稱	配付蛾數	配付人數
單獨	化性	青熟	青熟	三、二二〇蛾	三四名
單獨	化性	本青	本青	九八〇	三一
原甲組	化性	原日	原日	七五〇	三〇
原乙組	化性	原日	原日	六三〇	三〇
原乙組	化性	原支	原支	一、〇〇〇	四〇
原乙組	化性	原支	原支	八一九	

組合	化性	名	稱	配付蛾數	配付人數
國蠶一ノ組	化性	國蠶支四號	國蠶支四號	六五八	一九
國蠶一ノ組	化性	國蠶支五號	國蠶支五號	六五八	
計		二種と三組合		八、七一五	八六

秋蠶

組合	化性	名	稱	配付蛾數	配付人數
單獨	化性	中巢	中巢	一、七五〇蛾	一九名
單獨	化性	青熟	青熟	一、四五六	一九
單獨	化性	白金	白金	一、二三二	一一
單獨	化性	白鷄	白鷄	一、九三二	一五
基礎原種ナルモ試験用トシテ單獨ニ配付ス	化性	原支に就	原支に就	四二〇	二九
國蠶二ノ組	化性	國蠶日一〇七號	國蠶日一〇七號	三八八	三七
國蠶二ノ組	化性	國蠶支九號	國蠶支九號	五三二	
計		五種と一組合		七、七一〇	八〇

通計

組合	化性	名	稱	配付蛾數	配付人數
單獨	化性	中巢	中巢	一、七五〇蛾	一九名
單獨	化性	青熟	青熟	一、四五六	一九
單獨	化性	白金	白金	一、二三二	一一
單獨	化性	白鷄	白鷄	一、九三二	一五
基礎原種ナルモ試験用トシテ單獨ニ配付ス	化性	原支に就	原支に就	四二〇	二九
國蠶二ノ組	化性	國蠶日一〇七號	國蠶日一〇七號	三八八	三七
國蠶二ノ組	化性	國蠶支九號	國蠶支九號	五三二	
計		五種と一組合		七、七一〇	八〇

蠶種製造者

宇摩郡

合資會社 愛媛縣蠶業研究所

清水傳三郎

新居郡

小野寅吉

横井慶二

小野文雄

周桑郡

佐々木英一

松木兵吉

田中光三郎

越智郡

德永甚四郎

高橋精一郎

新谷米三郎

上浮穴郡

那須善助

上野光彌

山岡武一

喜多郡

湊尻準市

西山彌市

高橋三保

合資會社

豐隆館

中野重太郎

西山幸藏

二宮真志

鎌田鐵一郎

安井半太郎

長岡賢馬

加納喜市

矢野三郎

宮脇岩五郎

酒井榮樹

二宮近

山本猶三郎

栗田熊雄

松井仙重朗

大藤嘉重朗

愛農館合資會社

成田多久馬

德永茂太郎

西字和郡

合資會社 日進館

合資會社 双岩館

合資會社 農種館

瀧野勇

須川蠶種合資會社

高野新一

矢野數馬

東字和郡

名本惣太郎

安倍小源太

河野善光

御手洗千代治

上甲百治

西岡喜市

宇都宮寅松

原田政太郎

佐々木竹治郎

岡田久一郎

伊勢澄三郎

三好金之丞

三好幸一

兵頭合資會社

土居恒雄

菊池慶次郎

宮河清定

別宮長藏

武田勝信

佐海宮藏

窪常太郎

北字和郡

西川豊治

酒向正道

窪常太郎

上田徳太郎

兵頭格言

佐々木定次郎

山田良吉

芝園治

善家正之

船山金太郎

谷口寅吉

芝家正之

藥師寺 眞治郎	富永兵太郎	佐々木市太郎
赤松直次郎	松田幸太郎	芝來三郎
岡本景光	松田久雄	杉本雄太郎
青木正志		

南字和郡
愛媛縣南字和郡養蠶同業組合

第三 試驗並に調査

本年度に於ける試験並に調査の概要左の如し。

- 一、種類試験 内外各國の種類を飼育し、各蠶兒に就き其特性を比較調査し、就中優秀なるものを撰出して繭質改良整理の資に供せんとす。
- 二、雜種試験 各種の交配を行ひ、其の結果を査察して優良なる基礎原種撰出の資に供し、併せて新品種を撰出せんとす。
- 三、飼育標準調査 日本種、支那種、歐州種の三種に付、各種類に對する給桑回数、給桑量、蠶座面積等を調査して適當なる飼育標準を得んとす。
- 四、有毒物添食試験 蠶栗、三極等を給與し蠶兒に及ぼす影響を試験せんとす。
- 五、遺傳試験 蠶の各形質に對する遺傳現象を調査せんとす。
- 六、菰拔時期試験 菰拔時期と繭質との關係を試験し、實用上適當なる時期を知らんとす。

- 七、笹繭試験 繭質と笹繭との關係に就て調査し併せて笹繭淘汰の方法を試験せんとす。
- 八、雌雄分離試験 幼蟲、繭の各時期に於て各種雌雄分離法を試験し、實用上適當なる方法を發見せんとす。
- 九、種繭保護試験 各種保護法特に冷蔵法に就き試験を行ひ、實用上適當なる方法を發見せんとす。
- 一〇、人工孵化法試験 各種人工孵化法を實驗し、實用上適當なる方法を知らんとす。

二、桑園に關するもの

- 一、發芽促進試験 養蠶中、凍害其他の災害により葉芽を害せらるゝに際し、如何なる刺戟を與ふれば發芽促進をなすべきやを試験せんとするにありて、人工及諸種の刺戟物質を施して實用上の効果を知らんとす。
- 二、石灰加用試験 桑樹に石灰を施用する時は、其の葉質及收量に如何なる影響を及ぼすものなりやを試験せんとす。
- 三、種類試験 見本桑園栽植の桑樹百七十種に就き、其特性を比較調査し、就中優秀なるものを撰出せんとす。
- 四、桑株疎密試験 桑株の疎密により、收葉量及生育の状態に如何なる關係を有するものなりやを試験し、實用上適當なる程度を知らんとす。
- 五、無肥料試験 栽植當時より全く無肥料にて栽培し、普通桑園との成育並に收葉状態を比較せんとす。
- 六、肥料種類試験 各種肥料を施用し、桑樹成育の状態葉質及收葉量の如何を比較調査し、各

- 種肥料實用上の價值を知らんとす。
- 七、萎縮病試験 萎縮病に犯されたる桑樹、又は犯されんとする桑樹に對し、其の生活機能を圓滑ならしめ恢復程度を試験せんとす。
- 八、收葉法試験 收葉の方法を異にし採收する時は收葉量及樹勢の強弱に如何なる關係を有するかを試験せんとす。
- 九、桑葉貯藏試験 冷蔵其他各種の貯藏を行ひ、水分發散及び葉質の變化程度を試験せんとす。

三、依託試験

蠶種類試験 雜種試験により優秀なるものと認むるものにつき、更に之を當業者に依託飼育せしめ異りたる地方の風土及技能經濟的關係により、實用上の價值を知らんとす。

第四 講習

一、研究 生

本年度、研究生として入所を許可したるもの四名なり、研究科目、期間並に氏名左の如し

研究科目	入所年月日	退所年月日	住 所	氏 名
春蠶飼育並ニ蠶種製造	大正五年四月二十日	大正五年六月二十日	周桑郡吉岡村	弓山登喜一
秋蠶飼育並ニ蠶種製造	大正五年六月二十一日	大正五年十月二十一日	周桑郡周布村	高橋太六

蠶業一般	大正五年十月十一日	繼 續	喜多郡平野村	上田春太郎
蠶種學	大正六年二月一日	繼 續	上浮穴郡小田町村	河野健吉

二、講 習 生

大正五年十二月愛媛縣告示第六二〇號愛媛縣原蠶種製造所蠶業講習規程に基き、大正五年十二月十九日第一回蠶業講習生を募集し、大正六年一月十五日本所、本縣内務部、新居郡役所並に北宇和郡役所の四個所に於て志願者四十三名の内三十七名に對し入學試験を行ひ、其の成績により二十名を選抜入所せしめ大正六年一月二十五日より講習を開始せり。而して入所を許可したるもの、内一名は、病氣の爲め二月下旬に及ぶも遂に入所すること能はず、許可取消の止むを得ざるに至れり。第一回蠶業講習生の原籍氏名左の如し。

(イロハ順)

- 喜多郡平野村 井上利雄
- 喜多郡平野村 稻田壽郎
- 西宇和郡三島村 濱田貞治郎
- 北宇和郡立間尻村 藤堂四郎吉
- 西宇和郡喜須來村 河野清
- 伊豫郡南伊豫村 玉井伴藏

温泉郡北吉井村
 西宇和郡双岩村
 喜多郡平野村
 東宇和郡俵津村
 喜多郡栗津村
 新居郡飯岡村
 宇摩郡關川村
 周桑郡石根村
 西宇和郡三島村
 新居郡飯岡村
 西宇和郡千丈村
 上浮穴郡參川村
 喜多郡栗津村

田中好忠
 中野大吉
 上田泰
 宇都宮庄太郎
 山本形之助
 山内虎雄
 眞鍋長一
 近藤彦助
 小松卯之松
 佐々木友一
 菊地英雄
 宮内作重郎
 檜田岩夫

(111)

事績報告 第五號 終

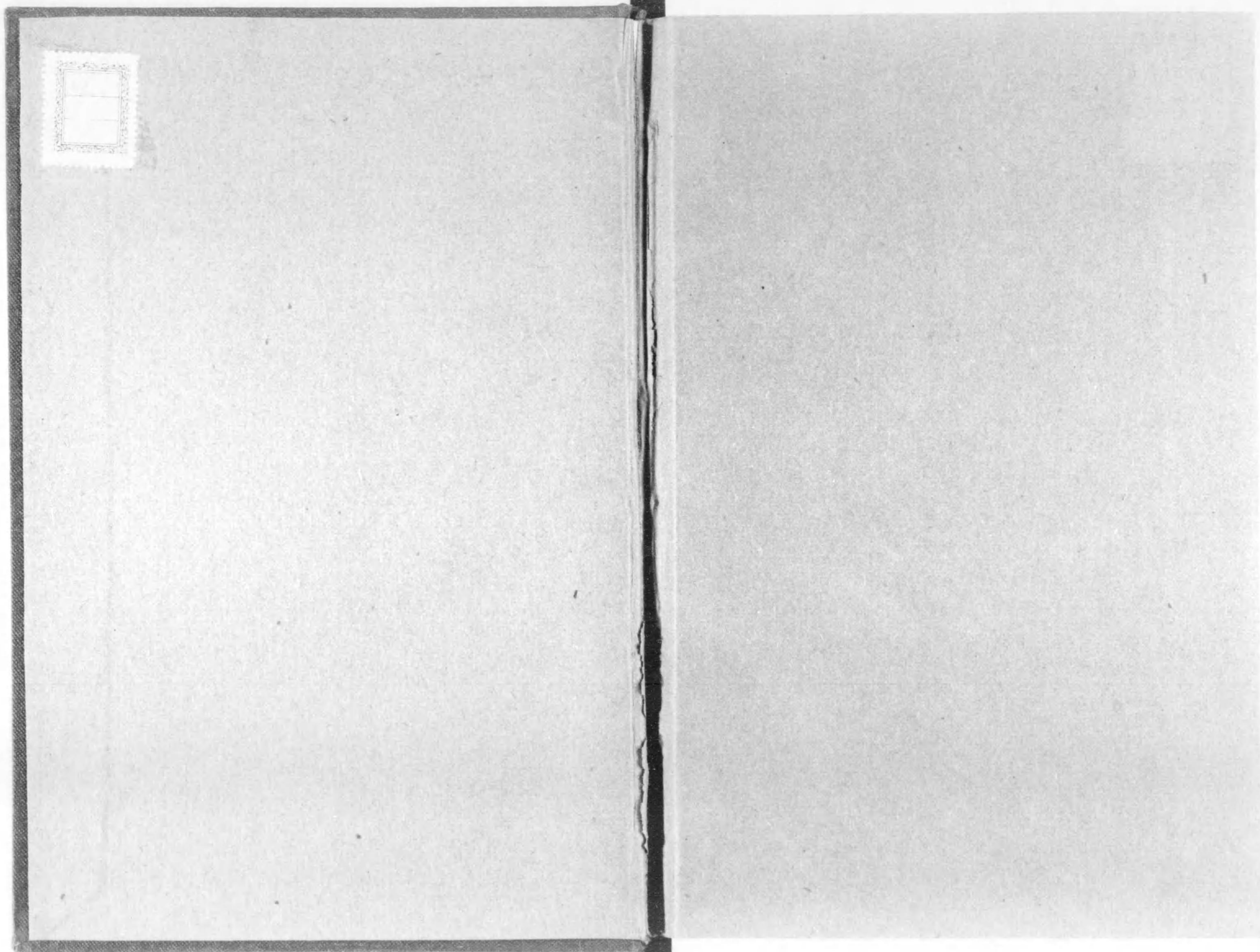
大正六年四月三十日印刷
 大正六年五月五日發行

愛媛縣原蠶種製造所

印刷者 關 定

印刷所 關和洋紙店印刷部

愛媛縣松山市萱町一丁目六拾八番地



終